

ピアノを通して 文化のチカラを伝え、 笑顔を広げたい。

ピアノと学業の両立に 奮闘した中高6年間。

人間的な魅力にあふれる先生方、いろいろな興味や価値観を持つ友人など、愛知淑徳では「出会い」に恵まれた6年間を過ごしました。個性を大切にする校風のもと、私もピアノへの思いを貫き、自分を成長させることができたと思っています。

私がピアノを始めたのは3歳。母が音楽関係の仕事をしているため、音楽が身近にある家で生まれ育ちました。ピアノを本気でめざすようになったのは中学生の頃です。毎日、何時間もピアノに向き合い、高校生になると東京でもレッスンを受け、夏休みにはドイツ留学にも挑戦。夢をかなえるため、演奏の技術力や表現力を鍛えようと努力を重ねました。大変だったのは、学業との両立です。授業の予習・復習や課題も、ピアノの練習

習も、どちらも十分に行うには日が24時間では足りません。それでも頑張り通すことができたのは、愛知淑徳の先生方が私の夢を尊重し、勉強のサポートや進路相談に親身に応じてくださったからだと感じています。また、クラスメイトの応援も心強く感じました。私もみんなの役に立ちたい。そう思っ

文化で地域を豊かにする、 その手助けができたら幸せ。

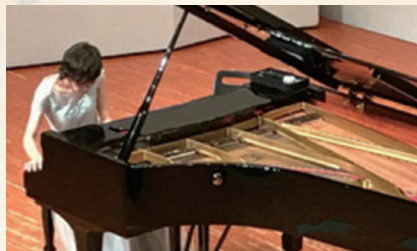
高校卒業後は音楽系の大学に進学し、ピアノ漬けの学生生活を送りました。大きな転機になったのは、大学2年生のとき。フォーカル・ジストニアという神経疾患にかかり、突然、右手の指が動かせなくなったのです。ピアノへの道が絶たれてしまった……

大きなショックを受け、ピアノから遠ざかる日が続きました。もう一度、大好きなピアノの前に戻れたのは、大学の先生方や友人、家族の支えのおかげです。先生が教えてくださった「左手のピアノ曲」を、リハビリを続けながら勉強し、ピアニストとして一歩を踏み出すことができました。現在は左手のピアニストとして演奏活動を行うとともに、音楽教室の講師として幅広い年齢の人々にピアノを教えています。

音楽をはじめとする「文化」は、人の心を豊かにします。今後、病院や福祉施設など「地域の人々に近い場所」での演奏活動に励み、文化のチカラを多くの人に伝えたいと考えています。愛知淑徳で学ぶ生徒・学生の皆さんも、失敗を恐れず何事にもチャレンジし、懸命に取り組んでください。あきらめずに前へと進み続けると、きっと思いがかないます。



高校2年生の中国研修旅行では、文化交流としてピアノを演奏。姉妹校の生徒と英語でコミュニケーションし、文通も楽しみました。



音楽教室の講師仲間とトリオを組み、病院や福祉会館、小劇場などでコンサートを開催。たくさんの笑顔に出会えることが幸せです。

ピアニスト 守矢 花梨さん

愛知淑徳高等学校を2004年3月に卒業。桐朋学園大学音楽学部音楽学科ピアノ専攻で演奏の技術を磨く。2008年3月に卒業後、同大学カレッジ・ディプロマ・コースを修了。ピアニストとしての演奏活動、幅広い年代へのピアノレッスンを通じて地域の文化振興に貢献。